

# 平成12年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果概要

平成12年観光客数(推計)	: 41,654千人 (対11年比3,608千人増、9.5%増)
日帰客数	: 36,871千人 (対11年比3,678千人増、11.1%増)
宿泊客数	: 4,783千人 (対11年比70千人減、1.4%減)
平成12年観光消費額(推計)	: 263,284百万円 (対11年比9,649百万円増、3.8%増)

## 観光客の動向

平成12年の観光客数は実人数で41,654千人と推計され、前年より3,608千人(9.5%増)増加した。内訳は日帰客数36,871千人(対前年比3,678千人増、11.1%増)宿泊客数4,783千人(対前年比70千人減、1.4%減)であった。

岐阜県においては「ミレニアム2000ウエルカム21ぎふ」や「飛騨美濃体験博」の全県にわたる展開や「高校総体」の開催により、観光客数は大幅に増加している。

圏域別にみると、特に岐阜圏域(11.6%増)と西濃圏域(16.0%増)の増加が顕著である。岐阜圏域の伸びについては、「WECスーパーウィーク」や「子ども未来博2000」などのイベントの効果や、「河川環境楽園」(74.6%増)が通年にわたりオープンしたことによる増加などが大きな要因となっている。

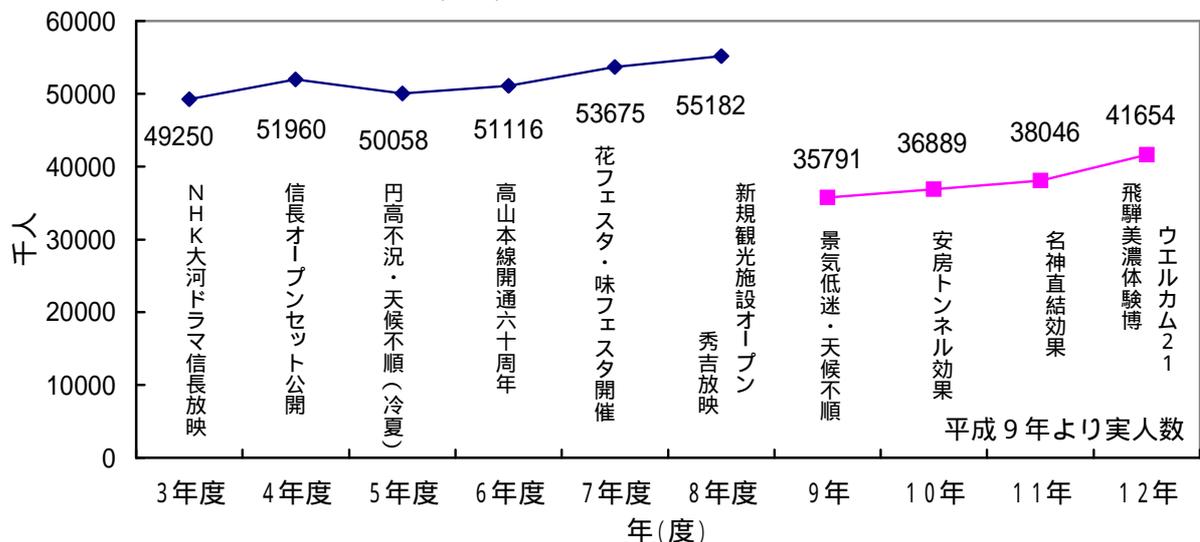
西濃圏域は、「決戦関ヶ原大垣博」や「関ヶ原合戦400年祭」をはじめとした、イベントの効果により大垣市や関ヶ原町で入り込み数を大幅に伸ばしている。

中濃圏域については、平成11年11月の東海北陸道荘川延伸により、高鷲ICが開通したことと新スキー場のオープンにより、奥美濃のスキー場の入り込みが好調であった。

飛騨圏域は圏域全体では前年比4.3%増となっている。平成12年10月の東海北陸道飛騨清見延伸の効果などもあり、10月～12月期に関しては前年比約14%増と高い伸びを示した。

一方、東濃圏域は恵那峡周辺施設の閉鎖等もあったが、前年比約0.6%減とほぼ前年並みの入り込み数を確保した。

## 年(度)別観光客数の推移



\* なお、平成11年の集計で一部市町村に誤りがあり、今回平成11年集計を修正しました。

平成12年の観光消費額は263,284百万円と推計され、前年より9,649百万円(3.8%増)増加した。

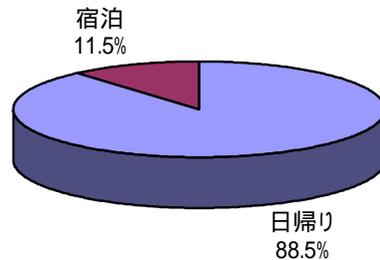
本年は観光消費単価の低い日帰り客数の割合が高くなったが、観光客数が増えたことで消費額としては前年を上回った。

## 1 観光客数（実人数）

### （1）圏域別・四半期別観光客数

平成12年の観光客数は41,654千人（対前年比3,608千人増、9.5%増）

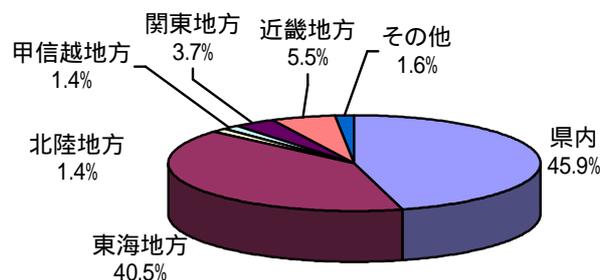
これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は36,871千人（対前年比3,678千人増、11.1%増）宿泊客は4,783千人（対前年比70千人減、1.4%減）と日帰り客が主体となっている。全圏域で日帰り客は増加しており、特に岐阜・西濃圏域での伸びが大きい。（表1）



### （2）圏域別・居住地別観光客数

居住地にみると、県内客は19,110千人（1,753千人増、10.1%増、構成比45.9%）、県外客は22,544千人（1,855千人増、9.0%増、構成比54.1%増）で、県外客のうち74.9%が東海地方で近畿地方、関東地方が続いている。

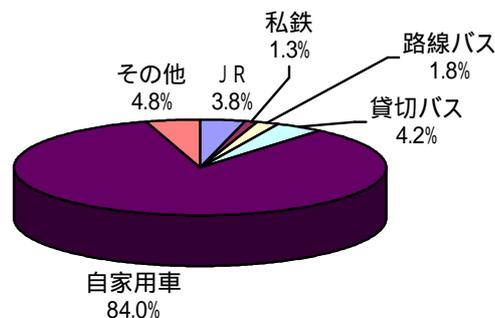
圏域別にみると、中濃圏域が近畿地方から、飛騨圏域が関東地方・近畿地方からの観光客数が多いのが特徴的である。（表2）



### （3）圏域別・利用交通機関別観光客数

利用交通機関別にみると、自家用車の割合が8割以上となっている。

圏域別にみると、飛騨圏域ではJRや貸切バスの割合が高くなっている。



#### (4) 圏域別・同行者別観光客数

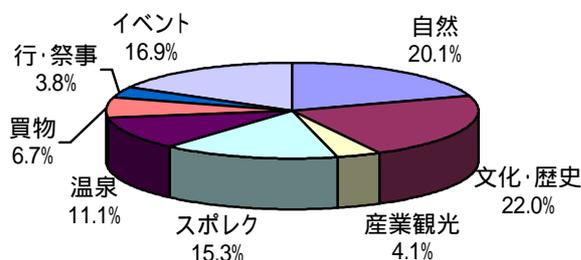
同行者別にみると、約6割が「家族」で、以下「友人・知人」、「自分ひとり」、「団体旅行」、「家族と友人・知人」とつづいている。

圏域別にみると、「自分ひとり」が岐阜・西濃圏域で、「友人・知人」が中濃・飛騨圏域で、「団体旅行」が飛騨圏域で割合が高くなっているのが特徴的である。

#### (5) 圏域別・観光地分類別観光客数

観光地別にみると、「文化・歴史」が全体の約4分の1を占め、以下「自然」、「イベント」、「スポーツ・レクリエーション」、「温泉」、「買物」、「産業観光」、「行・祭事」とつづいている。

圏域別にみると、岐阜圏域では「文化・歴史」や「イベント」、西濃圏域では「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域ではスキー場やゴルフ場をはじめとする「スポーツ・イベントレクリエーション」、東濃圏域では「自然」、飛騨圏域では「温泉」、「文化・歴史」を目的とした観光客が多い。



## 2 観光消費額

平成12年の観光消費額は263,284百万円(9,649百万円増、3.8%増)で、日帰り客は132,789百万円(11,195百万円、9.2%増)、宿泊客は130,495百万円(1,546百万円減、1.2%減)となった。

圏域別にみると、岐阜・西濃圏域で日帰り・宿泊ともに前年の消費額を上回っている。飛騨地域は前年比2.0%増で、依然総消費額の約40%を占めている。

日帰り・宿泊別にみると西濃圏域では日帰りに消費額が特化しているのに対し、飛騨圏域では宿泊に消費額が特化しているのが特色である。

1人当たり消費額に関して、日帰り宿泊別の消費額はほぼ前年と変わっていないが、総計1人当たりの消費額が下落している(4.4%減)のは、県全体で消費額の低い日帰り客数の割合が高くなったため、日帰り宿泊を合計して平均した場合消費額は相対的に下落することによる。